



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

求められる理念のある予算編成

教区経済問題評議会を開催

五月十二日(日)午後二時から教区本部で「教区経済問題評議会」が開催された。同評議員は現在十人(内一人はオブザーバー)で、今回は全員参加の中で活発な審議となった。

まず、会計担当司祭から五月十日(金)に行われた教区会計監査の指摘事項報告があり、議題1の二〇一二年「教区会計収支計算書」の審議に入った。以下、経済問題評議会が出された指摘事項。

①監査員からも指摘された事でもありますが、教区基金を取り崩して運用に充てているのは正常ではない。

②教区会計でも小教区会計でも言えることだが「宗教活動費」にもっと重点をおいて欲しい。

以上を踏まえた上で承認となった。次いで議題2の二〇一三年度「教区会計収支予算書」の審議となったが審議の前に、会計担当司祭から二〇一四年度への繰越が特定預金を取り崩した上で二百八十七万五千五百三十八円であることの説明を受けた。以下、経済問題評議会が出された指摘事項。

①予算を立てるに当たり、理念をしっかりと確認し合ってから予算編成に当たって欲しい。

②神学生養成費がその積立金を含めて厳しい状況だ。神学生のことをもっと皆に知らせたい。

③教区費を二千百万円に、また教区正常化献金を六百万円に修正し、予算において教区会計及び小教区会計を二〇一四年度「教区財政正常化献金」廃止に向

けて導けるようにして欲しい。以上を踏まえた上で予算案の承認となった。(報告 寝占敦之神父)

会計担当司祭からお願ひ小教区会計、教区会計も共に逼迫する中、皆様にはご苦勞をおかけいたしますが、教区会計担当司祭として、各小教区の主任神父方と財務委員の方々に二つの願ひをしたいと思います。



心は愛の象徴です。イエスは私たちがご自分の血の最後のひと雫まで愛してくださいました。人間にとって、イエスのみ心のミサを含むすべては神さまの愛の計画です。「神さまは愛です」と聖ヨハネは教えています。

イエスさまは十字架の上で亡くなりました。このこと、イエスさまの愛のことが一番深く明らかに表されています。イエスさまは十字架の上で亡くなることによって、私たちへの愛のすべてを明らかにされました。

イエスさまが亡くなる時、十字架の上でおっしゃった最後のことは「渇く、これは、私たちの魂を救いたい」と願う愛のことばです。神さまは世界と人間の中におられ、今日も働き、存在しています。イエスさまは人間のために亡くなるという自分を忘れた犠牲を行いました。



一つは、主任神父あるいは財務委員の方から、信徒の皆様に二〇一四年度教区財政正常化献金廃止に向けて、維持費納入者数とその額の増加の必要性を徹底して訴えて頂きたいということ。次に教区も皆様に厳しい予算の中で何を大切に編成したか、その理念、目的等を確認しお伝えいたします。ですから小教区でも、今一度財務委員を通じて予算づくりの目的、理念について話し合ってください。皆様の日々のご苦勞に感謝しつつ、会計担当司祭 寝占敦之

信徒総数は九千七百七十四 二〇一二年教区教勢まとめ

二〇一二年十二月三十一日現在の鹿兒島教区教勢がまとまった。それによると教区の信徒総数は九千七百七十四人。小教区でその実態を把握できていない居所不明者(三百九十二人)を引いた信徒実数は八千七百八十二人であった。

信徒総数は、最近では二〇〇六年の九千三百七十人をピークに徐々に減少し続けている。逆に居所不明者数はわずかではあるが毎年増え続けている。

また残念なことではあるが、直視しなければならぬことに教会学校の現状が挙げられる。諸事情から中学生や高校生のための教会学校を実施するのが困難だということも理解できるように、幼稚園児・小学生を対象にしたものでさえも

年ごとにその出席者が少なくなっている。二〇〇九年には教区全体で三百二十七人いた幼児・小学生の生徒数が二百十九人にまで落ち込んでいる。

典礼研修会始まる

教区典礼委員会(寝占敦之委員長)主催の典礼研修会が五月十九日(日)開催された。出席したのは本土



教区人事

▼鈴木康由神父(吉野教会在任)は、来年のローマ留学までの期間、種子島教会主任

修道会だより

▼勝一美修道女が管区長にクリスト・ロア宣教師修道女会日本管区長に戸円教会出身の勝一美修道女が就任した。

イエスのみ心のミサ

小宿教会主任司祭 G・ティエン

神さまは人間を愛しています。神さまの愛は正しく、無限です。神さまの愛は私たちの神さまへの愛よりずっと先を進んでいます。神さまは人間を愛し、救いたいと願っておられます。イエスさまが十字架の上で亡くなること、これは神さまの人間への愛を示すものです。「友のために自分の命を捨てること」です。これからは、分か

るように、イエスさまのことは行い的一致しています。この世界には悲しい出来事がたくさん起っています。憎みや欺き、そして戦争があります。人々はまだ互いに愛し合っていないから。神はいつも私たちが招いて「互いに赦し、愛し合いなさい。人のために自分をちよつと忘れて、ちよつと犠牲をささげなさい」

「共を考えよう ―イエス様の声が聞こえる医療とは!―」

い。そうすれば、隣人も、あなた自身も幸せになります」と教えてくださいます。 私たちがイエスさまと同じように、私たちがイエスさまのみにかなうように生きるなら、隣人は兄弟姉妹として、本当に愛の中に生きることができ、イエスさまは愛の火を世に持つてきて、人々の心を燃やしました。この火が世に燃え広がるように、イエスさまは望んでおられます。その火があるかないか、また、周りの人たちに、その火を伝えることができるか、どうにかかっているのです。 イエスさま、時々、私たちはイエスのみに背いて、罪を犯してしまします。どうぞお赦しください。 私たちがみ心に適う者になりますように。 マリアさま、私たちのために祈りください。アーメン。

カトリック医療関連学生セミナー2013 in 鹿兒島

「共に考えよう ―イエス様の声が聞こえる医療とは!―」

にち8月24日(土)〜25日(日)とところカトリック鹿兒島教区本部

主催 日本カトリック医師会鹿兒島支部 参加費 学生 二千元(昼食・懇親会費・宿泊費込) 一般 二万円(昼食・懇親会費込)

申込方法 セミナーホームページ「カトリック医療関連学生セミナー2013 in 鹿兒島」から

申込期限 6月24日(月)

教区の現状を探ることができ、教会の規模や地域特有の利便性を考慮に入れても教区全体では二十五・六%、つまり四人に一人しか主日のミサにあずかっていないという現状は決してよい状態とは言えない。教勢報告の数字からも早急に考え直さなければならぬ教区の現状を知り得る。(分析・寝占敦之)

地区を中心に各地から駆けつけた三十人あまり。出席者たちは桃菌助祭や寝占神父から「ことばの典礼」について学習した。

2012年 鹿児島教区教会現勢報告

Table with 2 columns: Clergy/Ministry (司教, 教区司祭, etc.) and Number of people (2人, 19人, etc.).

2012年12月31日現在

Main table with columns: 教会名, 信徒数, 信徒の死, 信徒の移動, 洗礼, 堅信, 求道者, 教会学校 (幼・小学生), 教会学校 (中学生), 教会学校 (高校生以上).

私たちは信仰宣言の中で「全能の神」と唱えますが、果たしてこの「全能」とは...

仰つています(マタイ19・26、マルコ10・2)。しかし、この言葉に「神様は奇跡すら起こし得る」という意味を読み込んではいけません。

鈴木神父のやさしいみことば 「全能の神」について考える

「全能」と訳される言葉は「力強い」という意味を持つ原語が使われているからです。

つこの出来事からユダヤ人たちは「神は民全体の望みを叶えてくれる力強い方である」として「全能」と訳された言葉で表現するので...

伝える一種の定型句のようなものだつたのかもしれない。それをゆえに、ここに神を信じる者の拠り所が表現されている、と言えます。

マリア山荘講座

「西郷隆盛とキリスト教」

「記念ミサとパネル・ディスカッション」

にち...六月十六日(日) じかん...午前九時三十分〜午後三時三十分まで 参加費...千円(資料代と弁当代含む) 講演...「敬天愛人とキリスト教」

高柳 毅(西郷南洲顕彰館館長) 「女性の解放と西郷隆盛」 安川あかね(西郷隆盛研究家)

※お問い合わせは、マリア山荘まで

TEL〇九九五(五八)二九九四

若者同士絆を深めよう!

八月に長崎で九州青年キャンプ開催

九州青年キャンプ(Kyushu Youth Camp II)以下KYC)は九州各地の青年が一堂に介し、出会いと信仰を体験し、絆を深めるために毎年開催されている。参加者たちは「来てよかった。また来年も参加したい」とこのキャンプで出会った他教区の青年たちと過ごした時間の素晴らしさを感じている。

今年のKYCのテーマは「道—あなたのむね、わたしのむねとおなじ」で、長崎市(長崎大司教館、八月二十四日～二十五日)での開催となっている。

この催しは来年は鹿児島での開催が決まっております。

チャレンジしようインターネット

教区関係のホームページ等紹介

五月五日(日)の第四十七回世界広報の日にあたり、前教皇ベネディクト十六世は、教皇メッセージ「真理と信仰の門、福音宣教の新たな場であるソーシャル・ネットワーク」を公表していた。ソーシャル・ネットワークとは、インターネット上でコミュニティを形成し、利用者同士が様々な形でコミュニケーションできる会員制サービスのことだが、まだそこまでは行き着かなくても、インターネットを利用して教会の情報入手することができ。今回は、教区に

司教執務室だより

輝け! 若者たち

六月と言えば梅雨。どこかうつろしいイメージがある。しかし、今年は少し違う。それというのも、今月二十八日、YOUCAT(ユーキャット…カトリック教会のカテキズム若者版)の日本語版が出版されることになったからだ。

二〇一一年八月に開催されたワールドユースデイマドリッド大会で配布された英語版を手にした若者たちが、「日本語にしたい」と翻訳を始めたのは帰国して間もなくだったと思う。しかも、「参加者全員で」という基本姿勢のもと、それぞれが数行ずつ分担しながら、二年余りを費やして出版にこぎつけた。私が担当している青少年部門として出版するというのもあって、翻訳会議に立ち合い、校正にも携わった者として、真新しい印刷の臭いを一日



も早く嗅いでみたい。それに、鹿児島からの参加者が訳した箇所もあるに違いないので、なおさらだ。

国内での販売価格は千八百円だが、来月開催されるWYDリオ大会に参加する若者四十一人と同伴者全員には無料配布されることになっている。それは、いわば、マドリッド大会参加者から、リオ大会参加者へのプレゼントということになる。若者から若者への宣教と言ってもいい。今回のテーマが、「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ28・19)であること

までに住所、氏名、生年月日、所属教会、電話番号を記載しEメールで申し込むことになっている。Eメールの送信先は以下の通り。参加希望者は、六月末日

kyusyu_catholic_camp2013@yahoo.co.jp (九州青年キャンプ) 長崎実行委員会
鹿児島教区青年会便り
鹿児島教区青年会では毎週第三金曜日午後七時から教区本部一階「信徒共同室」で、青年会活動として話し合いを持っていく。また秘跡に関する勉強会や分かち合いも実施しており、多くの青年が加わってくれることを希望している。

するホームページやブログなどをいくつか紹介したい。

① 鹿児島教区
<http://slemo.net/cdk>

三月二十日の韓国人司祭の叙階式の様子なども映像で掲載されている。また、吉野教会や種子島教会の部屋が設けられているほか二〇〇七年からの教区報もPDFデータで閲覧できるようになっている。

② レンブートル会フォーラム
<http://blog.redemptor-forum.com/>

レンブートル会会員から生きたヒントを得て欲しいと設置されている会員達のコラム集

③ 糸永真一のカトリック時評
<http://mr826.net/psi>

世の中の折々の問題や現象を取り上げ、これをカトリックの立場から論評

④ 郡山司教のブログ「24時間司教」
<http://slemo.net/phen>

人と物と出来事との出会いが司教の感性でつぶやかれる。

この他、左記のようなホームページやブログがある。

⑤ じゅんやの喜界島だより ⑥ マリア山荘 ⑦ ザビエル教会 ⑧ 聖心教会 ⑨ 谷山教会 ⑩ 玉里教会 ⑪ 入来教会 ⑫ ヤジロー村

「短信」

河野紀代子修道女

吉野幼稚園で主任として活躍したクリスト・ロア宣教師修道女会前管区長マリ・ア・ゴレットティ河野紀代子修道女が四月二十四日(水)肝臓がんのため入院先で帰天した。六十五歳だった。

▼徹夜祈祷会
五月十七日(金)夜から十八日(土)の朝まで、ザビエル教会で愛の泉のメン

+KABAYAN SEKSIYON+ Malalim na Pananampalataya Kailangan sa Misyon

Sa kanyang mensahe para sa Pandaigdigang Linggo ng Misyon, binigyang-pansin ni Papa Benedicto XVI na ang pagdiriwang sa taong iyon "ay mayroong natatanging kahulugan" sapagkat sa loob ng Vaticano II (50 taon ang nakakaraan), binigyan katuturan ng Simbahan ang kanyang sarili bilang "isang Simbahang naglalakbay at misyonero sa kanyang kalikasan" (AG 2). Binigyang-pansin ni Benedicto XVI na ang misyon "ang kailangang maging palagiang tinatana" na at sinusunod sa bawat pagkilos ng Simbahan. Kailangan sa gawaing ito ang malalim na pananampalataya. Noon pa ma'y ipinahayag na ni Papa Juan Pablo II: "Nagmumula ang misyon sa pananampalataya, isang tapat na palatandaan ng ating pagkikilos kay Kristo at sa kanyang pag-ibig sa atin" (RM 11). Sinabi rin niya na "sa kasaysayan ng Simbahan, ang sigasig sa pagmimiyon ay palaging indikasyon ng kasiglahan, at ang kawalan nito'y tanda ng krisis sa pananampalataya" (RM 2). "Tinatawag tayo ng Diyos tuwina na kalimutan ang ating sarili at ibahagi sa iba ang mga bagay na mayroon tayo, mula sa pinakamahalagang biyaya sa lahat: ang ating pananampalataya" (RM 49).

Dumalangin tayo kay San Pedro Calungsod, ang Pilipinong misyonero at martir na puno ng pananampalataya, upang ang Simbahan sa Pilipinas ay maging isang masiglang Simbahang misyonero sa lahat ng panahon.

Ang pagiging misyonero ay hindi lamang para sa mga nagpapatnong, bagkus ito ay misyon ng mga bininyagan kay Kristo. Ang lahat ng tumanggap ng sakramento ng binyag ay nakikita sa sinimulan misyon ni Jesukristo noong siya ay nasa mundo pa at ipinagkatiwala niya ito sa kanyang mga alagad at ipinagkatiwala din sa simbahan ang misyon ni Kristo na dapat ipagpatuloy sa ano mang panahon.

Ito'y magiging ganap na pagmimiyon ng mga bininyagan sa pamamagitan ng banal na Espiritu Santo na siyang gagabay sa lahat ng mga nagpapahayag ng mga salita ni Kristo bilang mga misyonero na may sapat na karanasan sa buhay pananampalataya tungkol sa pagpapatotoo na may iisang Diyos na dapat sambalin, at manampalataya sa bugtong na Anak ng Diyos na si Jesukristo.

Ang bawat kristyanong bininyagan ay nakikiusa kay Kristo sa pagpapalaganap ng Mabuting Balita sa buong mundo. Hindi lang ito gawain ng mga pari o madre, kundi bawat isa ay tinaguriang mga misyonero sa makabagong panahon sa iba't iba pang ng mundo. Kailangan ngayon ng Inang Simbahan ang mga misyonero na ipalaganap ang mga Salita ng Diyos para magkaroon ng sapat na pagkakilala sa Diyos at mahalig ng buong puso at kaluluwa. Kaya tayong mga bininyagan ay dapat natin mas palalilig ang ating pananampalataya sa araw-araw ng ating mamumuhay dito sa ibabaw ng mundo habang tayo ay nabubuhay pa.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orloff)

俳句

奄美市 林 常広
信号機ウイックしてる朝六時

奄美市 徳留かおり
悲しきや一人では涙あり生きて行けない

鹿児島純心 川上 和
白バラを一輪そえて笑顔咲く

霧島市 政 ノブ子
主に祈る御母に倣い聖五月柿若葉祈るアレヤ日曜日

出水市 沖 弘子
ミサ前に皆で口ザリオ聖五月

鹿児島市 徳永ノブ子
聖堂の薔薇のかぐわし聖母月

マリア像見上げて祈るアベマリ
ザビエル 上野千穂子
園児らは桜の下でアヴェ

短歌

鴨池教会 前田儀子
稲妻は海の彼方に突きささり夜明けの雷鳴耳をつんざく

夜の庭に立つ向日葵は暗暗と虚空に花輪の影を仰向く

出水教会 遠竹陸郎
教会に清貧求めるヴァチカンの新教皇の姿テレビにて観る

外つ国よりわが日の本に訪れて洗礼預ける司祭ら想ふ

鹿児島純心 川上 和
春風に思い出描くのどか村心やすらぐ朝のひと時

国分教会 市来房枝
春嵐二日続き寒戻る雪化粧せし高千穂の峰

吾のみの穴場か早蕨萌えて待つ「ありがたう」と声掛けて摘む

一、小西行長(弥九郎)の出自

キリシタン大名として、戦国時代の中で著名な人物は、高山右近の他に長崎の有馬晴信、大村純忠、豊前の黒田官兵衛、そして豊後の大友宗麟、肥後・八代の小西行長を挙げることが出来ます。遠藤周作は、『鉄の首枷』(一九七六年)を、大友宗麟については、『王の挽歌』(一九九二年)を著しています。小西行長は、堺の富裕な商人・葉種業を商う小西隆佐の次男として、堺に生まれました。父隆佐は、諱(いみな)を寿徳と号し、一五六五年頃、ヴィレラ神父によって洗礼を受けています。しかし、その動機は、長崎の有馬、大村、豊後の大友らの大名に見られるように、「貿易や軍事力強化のための利害関係にあった」、そう遠藤氏は述べておられます(『鉄の首枷』中公文庫版一九二〇頁)。



小西行長像の前で著者

礼を受けています。行長(弥九郎)は、父の政治的判断によって、十八歳頃、天下を狙う畿内在住の織田信長と安芸毛利との抗争の接点に位置する、宇喜多氏が統治する備前岡山に送りこまれました。岡山・宇喜多家の政商魚屋(納屋)の養子となったのです。後に、宇喜多氏の勢力が弱まり宇喜多氏が毛利方から織田方に転じざるをえなくなる

キリシタンの歴史⑭

小西行長と大友宗麟

溝辺教会主任司祭

坂本 進

た有能な人間であることを一目で見抜き、武將に抜擢したからでありました。以後、行長は、関ヶ原の戦いで敗死するまで、豊臣方に忠誠を尽くしていくのです。

「子供の時に洗礼を受けた行長(七歳頃)に、本当の意味での信仰はなかったであろう。ゆえに、洗礼を受けた行長は、神をさほど問題にしなかったかもしれぬ。だが、神は、この日から、アウグスティヌスの霊名をもらった彼を問題にしていくのである」(同書二十一頁)。

す。行長は、この後、高山右近と出会うことにより、父・隆佐と共に、真のキリスト教徒としての信仰の道へ導き入れられることになりま。みなさん、真の信仰を持つ人との邂逅は、信仰を生きたるために、なくてはならないものです。真の信仰の導き手は主イエスであることは言うまでもありませんが、と共に、そのイエスの生き方への倣いを手引きしてくれる具体的信仰者の存在を私たちは必要としています。それは、さらに、そのような模範者を師として仰ぎながら、自分もまた他の人々を導く信仰の導き手になっていく、ということでもあるのです。その時、私たちは、神

まい。神は、その人の信仰が魂の奥に根をおろすまで、陽にさらし雨を注ぎ、さまざまな人生過程を与えられるのである。行長が父と共に受けた便宜的な洗礼の水は、この日から、彼の人生の土壌に、少しずつしみこんでいくのだ。そう、行長は、死の日まで、この受洗の意味が何であったか、一度、神を知った者を、神は、決して離されぬということを知らなかったのである(同書 二十一頁)。

たのです。以後、行長は右近を秘密裡にかくまい、信仰者として目覚めていくことになっていきます。こういうことは、私たちにも起こるに違いありません。

豊後のキリシタン大名として名高い大友宗麟(一五三〇〜一五八七)は、一時はその才覚によって、九州全体を支配下に置く九州探題に任じられたほどの傑出した戦国武將でした。彼は、若き日に、フランシスコ・ザビエル(一五四九年来日)と出会い(一五五一年)その高潔な人格に打たれ、生涯、ザビエルを師と仰ぎました。しかし、心からキリスト教を信じ、洗礼を受けるようになったのは、ザビエルと出会ってから二十七年後の一五七八年であったのです。「人が神を忘れても、神は彼を忘れず、問題とし続け」ます。神の「問題」、それは何でしょうか。それは、神が、一度、神と出会った人を「決して忘れず」、「世話をし」、「救いを得るように導き働きかけ続ける」ということにほかなりません。

の力、聖霊の働きを体感することが出来ます。高山右近の影響を受けた行長は、やがて、自身も右近のように信仰の導き手、神の協力者として生きていくこと、思い始めたのです。天下人秀吉が、日本を外国勢力の侵略から守るといふ政治的理由から、キリシタン禁教令を發布した時(一五八六年)、右近だけはこれに従わず、大名剥奪・領地没収・追放という処分を受けました。この右近の信仰の証し、信仰的決断、潔さは、行長を驚愕させずにはおきませんでした。洗礼を受けてはいたものの眠った信仰しか持っていなかった行長の信仰心は、この事件によって覚醒させられ

会と催し (6月)

- 2日(日) キリストの聖体
- 3日(月) 聖体賛美式・ザビエル教会・17時
- 7日(金) 三教区司祭合同黙想会・大分・7日
- 8日(土) イエスの心
- 9日(日) 宣教学校・教区本部・13時30分
- 13日(木) 年間第十主日
- 15日(土) 東研神父、泉浩二神父、宋診旭神父霊名(聖アントニオ)
- 16日(日) 鹿児島きぼうの電話「カウニング講座」説明会・教区本部・14時と19時
- 17日(月) 年間第十一主日
- 17日(月) 典礼研修会・ザビエル教会・13時30分
- 17日(月) レデンプートル会例会
- 19日(水) 坂本進神父のホリスティック聖書講座「サマリヤの女―倫理と罪の許し」・ザビエル教会集会室・10時・五百円
- 21日(金) カスグレン神父命日(一九七九年)
- 21日(金) サントス神父叙階記念(一九七四年)
- 23日(日) 年間第十二主日(聖ペトロ使徒座への献金)
- 24日(月) オリブの会・教区本部・14時
- 24日(月) 洗礼者聖ヨハネの誕生
- 25日(火) ハヌス神父、レヒナ神父、小川靖忠神父霊名
- 28日(金) 山口重義神父叙階記念(一九七二年)
- 29日(土) 司祭評議会・教区本部・14時
- 29日(土) 教区司祭会・教区本部・16時
- 29日(土) 聖ペトロ 聖パウロ使徒(使徒座への献金)
- 29日(土) ※美島春雄神父、竹山昭神父、永山幸弘神父霊名(聖ペトロ) ※糸永真一名誉司教、小隈憲士神父、坂本進神父、アン神父霊名(聖パウロ)
- 30日(日) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 30日(日) ムイベルガ神父叙階記念(一九六九年)
- 30日(日) 年間第十三主日

祈りの意向

- 【ノベナ】 聖霊降臨の前に、新たに「堅信」を受ける人たちのため(10〜18日)
- 【祈祷の使徒会】
- 一 般・相互の尊敬
- 宣 教・新しい福音宣教
- 日本の教会・ことばの力

第7回フィリピン独立記念日

希望こそが我らの未来像と使命です
日時 6月22日(土) 午前8時30分
場所 鹿児島カテドラル・ザビエル教会
問合せ Ms.Nanette 電話〇九〇(八八三三) 二二四三三 Ms.Erica 電話〇九〇(二〇八三) 八六二一九